

## 動産執行で知ったこと

先日、ある会社に対して動産執行を行なった。その会社は寿司屋とラーメン屋とをそれぞれ1店舗ずつ経営していた。こちらの債権額は200万円を超える。動産執行でどれぐらい回収できるのかは不透明だったが、まずは本社所在地でもある寿司屋の執行に着手することになった。

法律事務所職員  
北原 新

### 初めての動産執行

動産の執行は初めてだったが、弁護士は日程の都合が合わず、執行官との面接や執行の立ち会いは私のみで行なった。

執行官との面接で、執行官から開錠技術者を付けるかどうかを尋ねられた。料金は2万5000円で、どれほど回収できるかわからない動産執行の費用としては高い。しかし、執行官からは開錠技術者を付けることを勧められたので、必要な場合もあるかも知れないと思い、付けることにした。

### 寿司屋に対する執行

当日は残暑が厳しく、真夏のような陽光が照りつけていた。寿司屋の昼の営業の閉店時間が午後3時。私たちは執行時刻を午後3時半に設定していた。少し早めに執行場所付近に到着し、私は同じく早めに来ていた開錠技術者の方と打合せじみた話をしながら待っていた。執行官が来たのは定時の5分前だったが、なんと、その直前に店員達が店の鍵を閉め、店から出て行ったのが見えた。3時半になったので執行に着手したが、前述したように店の扉には鍵がかけられていたので、技術者による開錠作業が始まった。この時、私は技術者を用意して良かったと心底感じた。技術者がいなかった場合には執行ができずに終わってしまうのだ。

その後店に戻ってきた社長が店内で執行官に対して何かうるさく言っているのが外にいた私にも聞こえてきたが、結局、店にあった現金の中から8万円を差し押さえ、執行を終えた。

### ラーメン屋に対する執行

8万円では債権額には到底足りないので、寿司屋の動産執行から約1ヵ月後、今度はラーメン屋の動産執行を行ない、当日は同僚の事務員と2人で行った。今度は執行時刻を昼の営業の閉店時刻と合わせ、最後の客が店を出たのを確認して執行官と開錠技術者が店に入った。寿司屋の執行の時とは違い、このラーメン屋はバイトの店員が勤務しているだけで、店員たちは事情を何も知らず怖がっている様子だったと、執行が終わった後で開錠技術者の方が教えてくれた。執行の最中、私達2人は店の外で店内の様子をうかがっていた。すると、数人連れの通行人が「あら、この店いつの間にこんな行列ができるようになったのかしら？」と話しているのが聞こえた。通りすがりの会話だと思っていたら、その人達は中を覗きに来て、入って食べようという勢いを感じたので、同僚が「閉店していますよ」と言った。その人達は状況がよくわからないというふうだったが、あきらめて去って行った。行列のできる店はやはり食べてみたくなるのだろうか。このラーメン屋の動産執行は現金約4万円を差し押さえた。債権額の全額を回収するにはほど遠い。

### 執行場所に立ち会えない債権者代理人

今回の動産執行で知ったこと。それは、債権者代理人であっても、債務者が拒否をすれば、執行場所に立ち会えないということである。執行官が言うには法律の条文がないとのことだった。この度の動産執行の債務者は債権者代理人の立会いを拒否したので、私は1回目の寿司屋の執行の際は、炎天下、約20分間外で待っており、2回目のラーメン屋の執行の際は通行人から店の行列と間違えられたのだった。